

第 660 回伝送工学研究会 特別講演会

日時：2025 年 10 月 21 日(火) 14:40～

会場：東北大学青葉山キャンパス 電気・情報系 1 号館 2 階大会議室

<https://www.eng.tohoku.ac.jp/map/?menu=campus&area=d&build=10>

主催：東北大学電気通信研究所伝送工学研究会

共催：EMC 仙台ゼミナール, IEEE EMC-S Sendai Chapter, 電子情報通信学会東北支部
(予定)

【講演題目】

放送用アンテナの歴史

【講師】

(株) 放送衛星システム (B-SAT) 正源 和義 様

【概要】

放送用アンテナの歴史として、まず 1953 年の地上テレビ放送開始にいたるアンテナ技術の開発について述べる。衛星放送については、1966 年の衛星放送研究開始から、日本は世界に先駆けて、衛星放送の実現に取り組み、実用化の面でも成功を取めた。これは、いち早く衛星の将来性に気付いた先見の明、キーとなる技術である受信コンバーターなどの研究に取り組んだこと、その結果として小型受信アンテナの使用が可能になったこと、さらには、番組面、サービス開発面での貢献が大きい。本稿では、初期段階の放送衛星開発の苦難の歴史や、BS-3 以降、筆者が研究で取り組んできた放送衛星搭載用アンテナについても述べる。最後に筆者が現在参加している ITU-R WRC-27 に向けた準備会合の状況について述べる。

【講師略歴】

1979 年東北大学大学院修士課程修了。1993 年東北大学博士(工学)取得。1979 年日本放送協会入局、盛岡放送局を経て、1982 年日本放送協会 放送技術研究所 異動後、放送衛星搭載アンテナ、衛星放送システム、無線伝送技術の研究開発に従事。1998 年～2003 年 日本放送協会 技術局 計画部にて将来の衛星放送計画業務、周波数管理業務、ITU-R(国際電気通信連合 無線通信部門)、ABU(アジア・太平洋放送連合)、APT(アジア・太平洋電気通信共同体)対応業務に従事。2003 年日本放送協会 放送技術研究所 異動、2011 年(株)放送衛星システム (B-SAT)。2021 年 B-SAT 退職。2004 年 IEEE シニアメンバー、2010 年電子情報通信学会フェロー受領。2002 年～2007 年 ITU-R WP6S(放送衛星) 副議長、2006 年～2010 年 ABU 技術委員会議長。

